事例No.	2092
公表年度	R4
団体の属性	指定都市
団体名	福岡県北九州市

事例区分	DX

タグ	・人材確保・育成 ・研修会・勉強会 ・ICT

事例種類	商業・工業

事例内容・タイトル

DXに対応した経営層向け生産性向上スクールの開催

出典

地域社会のデジタル化に係る参考事例集【第2.0版】

112 DXに対応した経営層向け生産性向上スクールの開催【福岡県北九州市】

事業の概要

○ 北九州市は、北九州高専と連携し、中小ものづくり企業の経営層向け生産性向上スクールを実施し、DX（デジタルトランスフォーメーション）に対応するべく、経営層の意識改革を目指している。

○ 経済産業省の支援を受け、産学官連携チームが独自開発したカリキュラムを用いて、2日間×6講座のプログラム（講義、ワークショップ、デジタル実習）を実施し、ビジネススクール形式で議論を行い、理解を深めている。

○ 令和元年度から3年間で、延べ56社、63名の受講者が参加している。



講義の様子



サイバー空間と現実空間の連携

【参考情報①】 人口：92.6万人
関連URL：https://kitakyu-robotech.jp/

【参考情報②】地方大学・地域産業創生交付金（内閣府）とは
URL：https://www.chisou.go.jp/sousei/about/daigaku_kouhukin/

もっと知りたい！ 担当者にインタビュー



（総務省）取組の経緯・きっかけを教えてください。



生産年齢人口が減少していく中、中小企業の生産性向上には、デジタル技術の活用が重要です。そこで、経営層がデジタル技術を活用した国際標準の業務を体感的に学習できる、本事業を開始しました。（北九州市）



導入又は実証時において、国又は都道府県の支援制度（人的支援や技術提供、補助金等）を活用しましたか？



カリキュラム開発にあたり、経済産業省「産学連携デジタルものづくり中核人材育成事業」（平成30年度）の支援を受けました。
事業の実施に当たっては、令和元年度から内閣府の「地方大学・地域産業創生交付金」を活用しています。



事業の近況を教えてください。



令和4年4月、北九州市ロボット・DX推進センターを設置し、市内企業への支援体制を一層強化しています。
また、本スクールに参加した企業が経済産業省のDXセレクション2022準グランプリに選定されるなど、支援の効果が出てきています。

★担当：北九州市産業経済局地域経済振興部 次世代産業推進課★

令和3年度事業費 8,000千円
（うち、地方大学・地域産業創生交付金（内閣府） 4,000千円）